



大正 15 (1926) 年開業。現在の駅舎は昭和 33 (1958) 年に建てられたもの。成田山新勝寺をイメージしたデザインが参詣気分を高める。ここから土産物店などが並ぶ参道を歩くのも成田詣の楽しみの一つ。

千葉県・東京都 京成電鉄

本線・金町線・押上線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第10回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか

聖地をつなぎつつ 成田を目指した鉄路

鉄道の草創期には、全国各地の有名社寺の参詣路で国鉄(官鉄)対民鉄の乗客競争が起った。日光や伊勢、川崎大師などが有名であるが、成田もまたそうした競争の場となった。ここでいう成田とは成田山新勝寺の略といつてよい。

新勝寺は平安時代、平将門の乱を平定するために創建された古刹であるが、有名になったのは江戸時代で、江戸での出開帳(秘仏の特別公開)と初代の市川團十郎が篤く信仰したことで参詣者が急増した。

参詣者をめぐる競り合いは、まず成田鉄道と総武鉄道の間で繰り広げられたが、大正9(1920)年までに両社が国有化されたことにより解消した。

ここに新たに参入してきたのが京成電気軌道(昭和20(1945)年に京成電鉄に改称)であった。京成が成田を目指す鉄路として創立されたことは、東京と成田を表す社名から明らかであるが、成田への道は遠かった。大正元(1912)年の開業時の路線は、押上(現、江戸川)と曲金(現、京成高砂)と柴又というものであった。

なぜ曲金で分岐して、たった1駅柴又へ鉄路を延ばしたのか。それは柴又帝釈天の名で知られる題経寺があるからだ。題経寺は日蓮聖人自刻の帝釈天板本尊を安置して



成田空港駅開業は昭和 53 (1978) 年だが、当初の成田空港駅 (現東成田駅) から空港まではバスが必要だった。乗り入れは平成 3 (1991) 年。国際空港がぐっと身近になった。



新勝寺大本堂に安置される成田不動尊は、もとは京都の神護寺にあったが、平将門の乱を平定するために当地に遷されたのだという。その靈験で乱は鎮定され、「新たに勝つ」お寺が創建された。

手児奈靈神堂

柴又帝釈天題経寺



多くの者に求婚されたことに悩み身投げしたという手児奈の霊を祀る。行基により 8 世紀に創建されたとされるが現在は日蓮宗の寺院。



寛永 6 年 (1629) 創建。日蓮聖人自刻の帝釈天板本尊を安置し、縁日の庚申の日には多くの参詣者で賑わう。帝釈堂の彫刻でも有名。

旧博物館動物園駅

柴又駅

京成電鉄株式会社

Keisei Electric Railway Co., Ltd.

開業 明治 42 (1909) 年 6 月 30 日
 本線 京成上野 - 成田空港 (69.3km)
 金町線 京成高砂 - 京成金町 (2.5km)
 押上線 青砥 - 押上 (5.7km)
<https://www.keisei.co.jp/>



昭和 8 (1933) 年の開業時は動物園前といった。この場所は皇室の御料地であったため駅舎も品格ある建物であることが求められ、国会議事堂を思わせる重厚なものとなったという。



映画『男はつらいよ』シリーズの舞台として有名。駅前の様子は映画と変わってしまったが、寅さんとさくらの像が乗降客を迎えてくれる。

いとされ、江戸時代から多くの参詣者を集めてきた。今も途切れることなく参詣者が訪れるが、江戸時代とは意味合いが少し異なっている。柴又は映画『男はつらいよ』シリーズの聖地にもなったからだ。駅前の車寅次郎・さくら像の前で記念撮影する人も絶えない。

その後、京成は千葉西部の聖地を結んでいくように路線を延ばしていった。大正 3 (1914) 年には市川真間、翌年には中山まで延伸したが、それぞれ『万葉集』に歌われた悲劇の美女・手児奈を祀る手児奈靈神堂、日蓮宗の大本山法華経寺がある。

昭和 5 (1930) 年に成田まで開通し、当初の目的は達せられた。だが、成田空港開業に伴い、路線はさらに延伸することになった。現代の聖地出現といえようか。

いっぽう都心の方面へは、当初、押上から浅草への延伸を考えていたが敷設の見込みがつかないため、青砥から上野へと路線を延ばすこととなった。昭和 8 (1933) 年に上野公園 (現、京成上野) まで開通し、現在の路線の骨格ができあがった。

この頃の名残を留める建物がある。旧博物館動物園駅だ。地下駅への入口に造られた上屋なのだが、小さいながら立派な古典主義的西洋建築となっている。

見渡してみれば、ここは東京国立博物館や東京芸術大学、旧帝国図書館などの中心。この小さな美しい建物は、上野公園が近代文化の中心地となっていく上で京成も一役買っていたことの証でもあるのだ。

しぶやのぶひろ

1960年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究者。『図解 はじめての神道と仏教』(ワン・パブリッシング)、『聖地鉄道めぐり』『日本の暮らしと信仰 365 日』(以上 G. B.)、『猫の日本史』(出版芸術社) ほか著書多数。